



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—ナスダック指数が4週ぶりに反発し史上最高値を更新—

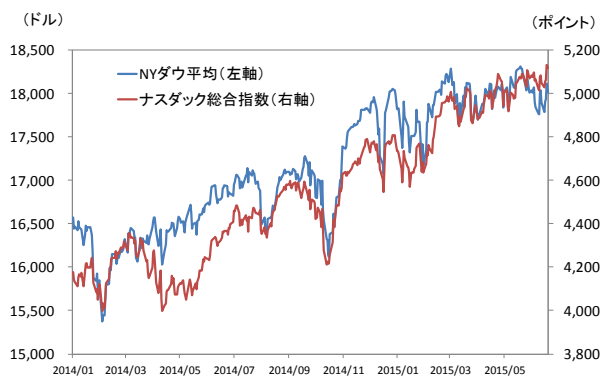
	前週終値	6月15日	6月16日	6月17日	6月18日	6月19日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	17,898.84	17,791.17	17,904.48	17,935.74	18,115.84	18,015.95	+117.11	+0.65%
騰落幅		-107.67	+113.31	+31.26	+180.10	-99.89		
S&P500	2,094.11	2,084.43	2,096.29	2,100.44	2,121.24	2,109.99	+15.88	+0.76%
騰落幅		-9.68	+11.86	+4.15	+20.80	-11.25		
ナスダック総合指数	5,051.10	5,029.97	5,055.55	5,064.88	5,132.95	5,117.00	+65.90	+1.30%
騰落幅		-21.13	+25.58	+9.33	+68.07	-15.95		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場は、ダウ平均、S&P500、ナスダック総合指数の主要3指数が揃って上昇し、ナスダック総合指数は史上最高値を更新しました。

ダウ平均が1万8000ドルを割り込み値ごろ感が出たことに加えて、連邦公開市場委員会 (FOMC) メンバーの今後のフェデラルファンド金利予測の中央値が、2016年・2017年について3月時点の発表よりも低下したことで、利上げペースがゆっくりとなることが意識され、買い先行となりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



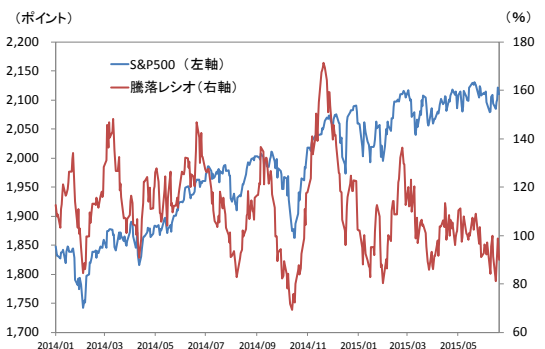
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	16.1	3.0	2.4%
S&P500	17.8	2.8	2.0%
ナスダック総合指数	22.3	3.6	1.1%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年6月19日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

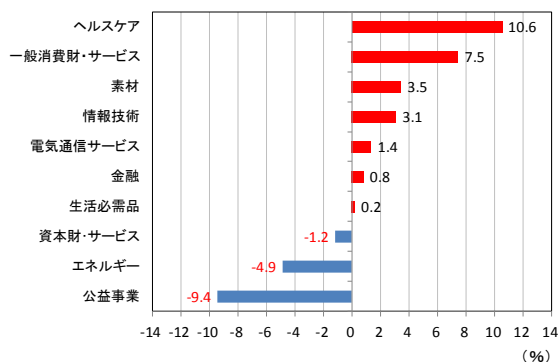
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

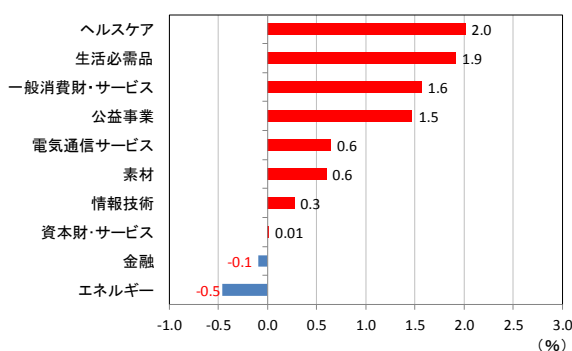
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(6/15-6/19)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
NKE	ナイキ	2.6
DIS	ウォルト・ディズニー	2.4
INTC	インテル	2.4
UNH	ユナイテッドヘルスグループ	2.3
PG	プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー	2.1
CSCO	シスコシステムズ	1.7
HD	ホーム・デポ	1.7
BA	ボーイング	1.6
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	1.5
XOM	エクソンモービル	1.4

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(6/15-6/19)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
UTX	ユナイテッド・テクノロジーズ	-2.3
V	Visa	-0.9
GE	ゼネラル・エレクトリック	-0.5
AAPL	アップル	-0.4
CVX	シェブロン	-0.4
CAT	キャタピラー	-0.4
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	-0.2
PFE	ファイザー	-0.1
TRV	トラベラーズ・カンパニー	-0.02

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の30銘柄中20銘柄が上昇、1銘柄が横ばい、9銘柄が値下がりしました。シスコシステムズ(CSCO)は、数年に渡り中国事業に100億ドルを投資すると発表し、今後の収益拡大期待から買われました。また、ロシアの航空会社から74億ドル相当の貨物機を受注したと発表したボーイング(BA)も1.6%高と堅調でした。

<下落>

業績見通しを下方修正し、あわせてヘリコプター事業の分離・売却を検討していることを発表したユナイテッド・テクノロジーズ(UTX)は週間で2.3%の下落となりました。

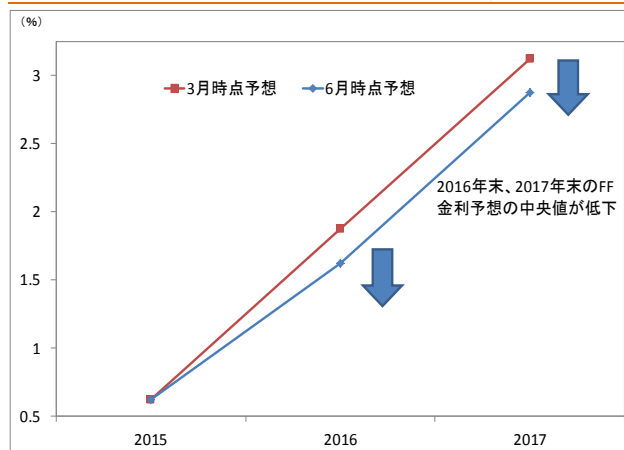
先週発表された主な経済指標

連邦公開市場委員会 (FOMC)

16日から17日にかけて行なわれた連邦公開市場委員会 (FOMC) で、市場予想通りフェデラルファンド金利の引き上げ (=利上げ) の決定は行われませんでした。

また、FOMC 参加メンバーたちの今後の経済成長や金利予想をまとめた通称「ドットチャート」における金利予想の中央値が、2015年末は0.625%と3月時点から変化がなく、2016年末の中央値が1.875%→1.625%へ、2017年末が3.125%→2.875%へそれぞれ低下した (グラフ参照) ことで「今後の利上げペースがゆっくりとなる」との思惑が高まり、マーケットは発表後に債券高 (金利低下) ・ドル安・株高という反応を見せました。

前回FOMCからの年末金利中央値予想の変化



(出所) FOMC発表を元にマネックス証券作成

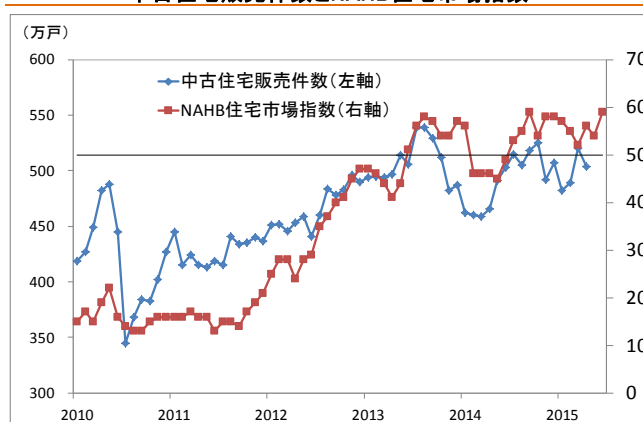
今後発表される主な経済指標

5月 中古住宅販売件数 (年率換算) 市場予想 528 万件 前月 504 万件

22日に5月の中古住宅販売件数が発表されます。4月分は前月から販売件数が減少し、市場予想も下回ってネガティブ・サプライズとなりました。

販売件数から見ると住宅市場の回復はやや鈍くなっていますが、先に発表された住宅市場の先行指標である6月のNAHB住宅市場指数は59と高水準を記録しており、今後は住宅市場の回復ペースが加速することが期待されています。

中古住宅販売件数とNAHB住宅市場指数



(出所) ロイター社データよりマネックス証券作成

マーケットビューー揉み合い継続かー

先週のマーケットビューーでは、FOMCの発表内容次第でマーケットの動向が大きく変わる見込みであることをお伝えいたしました。結果的には経済指標欄でも記したように参加メンバーたちの金利予想の中央値が前回発表時から低下したことで、利上げペースがゆっくりとなるとの思惑が働き、株価は発表後に上昇しました。一方でイエレンFRB議長は記者会見で、「参加メンバーの大半が年内に利上げが開始できると考えている」と述べ、改めて年内の利上げ開始意欲を示しました。マーケットでは9月のFOMCにおいて利上げが開始されるとの見方が最も有力なようです。ただ、イエレン議長が繰り返し強調している通り、利上げの決定は経済指標次第であることから、これから夏場に発表される経済指標の良し悪しに注目が高まります。

今週はギリシャの債務問題の動向に注目が集まりますが、それ以外にはやや材料難と言った状況で、引き続きダウ平均は1万8000ドルを挟んだ揉み合いが続くと考えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会